

福祉について

さて、次に福祉についての市長の姿勢を伺います。

私は、何度か議場でもお話いたしました。議員活動の柱として、格差の是正・市民参加・公正な競争の実現・多様性を認める社会の構築、を掲げてきました。私が盛岡市議に就任させていただいたのも、介護保険の導入など、福祉が「措置から自己決定を経た契約へ」大きく転換した時期であり、この4つの柱について深く考えることとなりました。

特に2011年から、東日本大震災被災者支援、生活困窮者自立支援制度での併走型支援、子どもへの学習支援、障がい者や若者の就労支援などに関わって来た結果、盛岡市のこれらの取組みに対して好感を持ち、評価しています。

これらの課題に対する盛岡市の施策は、複雑な問題を抱えている市民の現実から出発していること、民間団体とも連携しながら複数の機関が解決に向けて取り組んでいることなど、厚生労働省が地域福祉のモデルとして示す「トータルケア」を先取りした取組みになっていると思います。つまり「市民協働を母体にした工夫する福祉」が生まれており、現在取り組んでいる多機能連携のモデル事業には「困っている人を誰一人見捨てない地域福祉」の萌芽も見られます。取り組んでおられるみなさんは、わりと「さらっと」やっぺらっぺらに見えるように見えますが、これはものすごいことですよ。

これらの「新しい福祉」は谷藤市長の実績であり、大いに敬意を表する次第ですが、1つだけ残念に思っていることがあります。「この成果をもう少し大声で宣伝してもらえないかなあ」といつも思うのです。奥ゆかしいのは盛岡人の特徴だとも言われますし、日常生活においては美点であります。市

長にはもう少しだけ雄弁になっていただきたいです。盛岡の実践を発信することは日本全体の福祉施策の向上を推進することにも繋がると私は思います。私の記憶に間違いがなければ、工藤巖市長在任時に「福祉のまち、盛岡」を標榜していたかと思うのですが、福祉政策に力を入れていることを示すためにどのような形でも構いませんので同等の表明を行っていただけませんか。盛岡市の福祉施策とそれについての取組みに対する市長のご所見も合わせてお聞かせいただければと思います。

〔市長答弁〕

次に、福祉施策に力を入れていることを発信してはどうかについてであります。総合計画において、基本目標の一つに「人がいきいきと暮らすまちづくり」を掲げ、地域福祉をはじめ、各種福祉施策を行っているところであり、特に「子育て応援プロジェクト」を戦略プロジェクトとして位置づけ、様々な場面で、子ども子育てを支える施策に力を入れていることを発信させていただいているところであります。

次に福祉施策に対する所見についてであります。が、少子高齢化や核家族化が進行する中で、地域や家族のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境が変化しており、福祉ニーズも多様化、複雑化してきているものと存じており、多様な課題に対応するため、相談支援包括化推進員を配置し、包括的・総合的な相談支援体制の構築に取り組んでいるところであります。